

1. 評価報告概要表

作成日 成 20 年 2 月 29

【評価実施概要】

事業所番号	1070201247
法人名	株式会社 ケア・グループ
事業所名	グループホーム 井野の家
所在地	群馬県高崎市井野町860 (電 話) 027-370-5757

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年2月13日

【情報提供票より】(20 年 1 月 10 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算	6人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建て,	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円

(4)利用者の概要(1 月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高崎中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地にホームが建てられている。理念を毎朝全職員で唱和し、日々の介護に取り組んでいる。食の大切さと重要性から、調理等、担当職員を配置し、介護職員は、入居者の生活に寄り添い、一人ひとりの人権を尊重してゆとりをもった介護を行い、安定したケアサービスに努めている。年2回のお花見やりんご狩りの行事には、入居者、家族、全職員でホームの手作り弁当を持って出かけ楽しんでいる、又、その場が家族会になり交流を深めている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善項目は、運営者と全職員で確認し検討している。カレンダーは手作りで数字が大きくて見やすく、入居者による季節の絵がかかれ好感の持てるものがホールの壁に掛けられ、時計も文字のはっきりしたものになっている。また、介護計画の見直しの期間が3ヶ月となり、見直し後家族に確認してもらおう等前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者及び全職員は評価の意義を理解し全員で意見を出し合い作り上げた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催されており、ホーム側から入居者の情報、季節の行事、外部評価の報告等を行い、活発な意見が交わされている。入居者の家族の医師からは感染予防や病気の対応に関する意見や資料の提示があり活用する等、出された意見をサービス向上に活かしている。今後、認知症介護のプロとしての力量を地域の中で発揮するための場作りが出来る事を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の暮らしぶりや健康状態等は、毎月1回のホーム便りで報告している。家族の意見、苦情、不安等については、面会時や運営推進会議、家族会等で聞き、出された意見は小さなことでも職員会議で検討し、運営に反映している。相談、苦情の窓口は管理者が行かない、また行政に設置してあることを説明し、対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入っており、町内の敬老会に招待されている。また、ホームの庭に地域の子供たちが立ち寄り庭で遊んだり、近所の人が花を持ってきてくれたり、隣接の田畑の田植えや収穫を通して地域との交流がある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1・人格尊重の介護、2・高齢者同士が自由に自分らしく生きる、3・使命を持った勤務の遂行、4・地域とのふれあい、を理念に、地域の中でその人らしく暮らせるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングには全員で理念の唱和を行って日々の介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、町内の敬老会に招待されている。地域の子供達や近所の人が遊びに来たり、ボランティアの来訪等地域との交流がある。また、ホームの庭に隣接した田んぼの田植を見学しながら話をしている。そこで収穫された米が食卓にあがっている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び全職員は評価の意義を理解し自己評価を全員で作上げた。外部評価の改善項目については全員で確認し、入居者による季節の絵が書かれた数字が大きく見やすい手作りカレンダーをホールの壁に掛けたり、はっきりした文字の時計にするなど、評価を活かし前向きに改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、家族3名が交代で出席している。入居者の生活状況や健康管理、季節の行事、外部評価の結果等を報告し、意見が交わされている。入居者の家族の医師からは、感染症の予防に対する意見や資料の提示、また、市職員からは、車に乗ったまま楽しめるイルミネーションの紹介等があり、出された意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会に参加したり、介護保険の申請の際には市に出かけているが、運営推進会議以外に市担当者と情報交換をする機会はあまりつくっていない。	○	認知症介護のプロとしての力量を地域の中で発揮するためにも、ホーム側からアピールしたり、管理者として、事業所の実情や、ケアサービスの取り組み等報告しサービスの向上を目指すため交流を深めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月1回、ホーム便りで暮らしぶり等を報告しており、面会時にも暮らしぶりや、健康状態等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見は、運営推進会議や家族会、家族の面会時に聞き、反映している。ホームの相談苦情窓口は管理者であるが、行政にも窓口が設置されていることを家族に説明している。また、玄関にご意見箱を設置し、意見の収集に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は離職のない働きやすい職場作りのため、調理や掃除に別の担当職員を配置し、介護に専念できるようにしている。現在は、管理者、職員も交代なく落ち着いている。入居者も落ち着いて生活ができ笑顔で明るい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員が交代で受講し、受講後は全職員で共有できるよう会議等で報告をしている。事業所内研修は、インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症や嚥下に関すること等、随時行っており、職員も積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に入っている。交換研修では、他のグループホームからの受け入れをしたり、研修に出向くことで、自分達の介護を見直し、学び、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と面接を行い、今までの生活や食べ物の好き嫌い等を聞いて、どのような対応を行うか話し合っている。また、ホームを見学してもらい、雰囲気馴染めるように配慮している。入居後は入居者同士のコミュニケーションをはかるため職員が会話や調整に入り支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漢字や祝日の旧の呼び方(紀元節)など、職員の知らないことを入居者から教えてもらう等、学び支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人や家族の希望や思いを聞き取り、希望等を表出出来ない入居者には望んでいるらしいことを推察し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がいかに毎日気持ちよく過ごせるかをモットーに、本人や家族からの聞き取りを重視し、職員の意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングシートやカンファレンスで検討し、介護計画は3ヶ月に一度見直しを行い、変化に応じて随時見直しを行っている。家族に確認していただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が病院などに同行できないときなど、介護タクシーの手配を行っている。ドライブや年2回のお花見、リンゴ狩りの行事にはホームで作った手作り弁当を持ち、入居者、家族、運営者と全職員で出かけ楽しんでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医に受診できるように支援している。往診時には、日々のデータ等の情報を医師に提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期の方針は、運営者、全職員で把握しており、家族も確認し納得している。ケアができるまでホームで行い、治療必要時、看取り時は医師の指示のもと入院等の対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかな声かけを行い、入居者の誇りを尊重し対応している。記録等の個人情報は事務所に保管し、取り扱いをきちんとしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、入居者が思い思いに1日が過ごせるよう、見守りの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等の準備やテーブル拭き・お盆拭き等、入居者の能力を活かしながら職員と一緒にやっている。入居者の好みを良く聞き入れ献立に活かしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日3名の入浴で、毎日の対応を行っている。当日入浴を希望しない方には強制せず、次の日に声かけをして誘う等工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	広告の紙を利用したゴミ箱作りや雑巾づくり等、楽しみながら行っている。出来あがったものをホームで使い、職員が「助かります」の感謝の声かけをする等、役に立っている喜びが持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回のドライブや、年2回の遠出の旅を行っている。本人の希望により家族と外食や買い物に出かけることもある。車いすの入居者が多く、ストレスを作らないよう、庭に出て田植えや畑の作物の収穫を見学している。回数は少ないが近所を散歩して地元の人との交流に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による避難訓練と職員による避難訓練を年1回づつ行い、入居者も一緒に参加し、隣の畑まで避難している。災害時の地域の協力は近くの民生委員に依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を行い、入居者一人ひとりの摂取量の変化、体調の変化等を確認し、介護職員のアドバイスで調理員が調理している。また、食前に口腔体操を行っている。状況にあわせ、刻み食等の支援もしている。		
ひ					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は四方より自然光が入り明るく不快な音や臭いがなく気持ちよく過ごせている。食堂とホールは広く、ゆったりと過ごせるように配置されている。節句の雛人形等が飾られ季節を感じられるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に、家で使い慣れた家具や仏具を持ち込んだり、また、家族の写真やボランティアさんと作った花や壁掛けを飾るなど、居心地よく過ごせる工夫がされている。転倒の危険のある方にはベットを除きマットにし、動きがわかるように布団の端に鈴をつけたり、何でも食べてしまう方には、誕生カードや絵を手の届かないところに飾る等の工夫をしている。		